

「・」→グループワーク付箋 「○」→グループ発表 「◎」→講師板書

	グループ構成	①所属自治会のつながりづくりの仕方	②つながりづくりの課題	③望ましいつながりづくり
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ●参加自治会 ・本町 2名 ・恩多町 4名 ・多摩湖町 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会（月1回） ・清掃、除草活動 ・年1回の美化デーの継続 ・各セミナー、フォーラムを自治会全員に情報を配布 ・あいさつ運動 ・自治会主催の各種祭事 ・今まで全体をまとめることに目をむけていた →小さな仲間を作り全体につなげたい ・資源回収補助金を財源として、隣近所での集まりに一人当たり300円の補助金を出す（カラオケ会・昼食会・親睦会・日帰り温泉旅行） ・一つの活動に対して継続すること、アナウンスすること、個々の参加意識を高めることを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけの難しさ ・情報を届ける手段 ・集まる場所、時間 ・気楽に集まれる場所がない ・自治会内に集会場がない ・他世代との関係づくり ・高齢化によりイベントができない ・役員が1年交代だが、高齢化でなり手がいない ・顔を合わせる機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会内でのあいさつ、声かけ ・ゆるやかなつながり（あまり拘束力を持たせない） ・義務感、負担少なく安心できるつながり ・気の合う仲間から輪を広げ大きな仲間にしていく ・何かあれば声かけや手伝いができる関係 ・役員会での意見交換 ・幸せのネットワーク保険という考え方を広める
		○隣近所が分からない中で、茶話会をしたり、各種内容についての回覧等を参加されていない方にも周知したりしている。	○集まる場所がない、参加意識が乏しい。年齢とともに参加場所に行くのが辛い	○輪を広げ、大きなことにつなげていければよい。役員の義務感・負担感を少なくできるとよい。あいさつ運動、隣近所への声かけができる地域づくり
	◎情報の周知 ◎あいさつ運動などの事業	◎集まる場所 ◎参加意識 ◎年齢とともに低下	◎徐々に輪を広げる ◎ゆるやかなつながり（拘束力をもたない）	

「・」→グループワーク付箋 「○」→グループ発表 「◎」→講師板書

	グループ構成	①所属自治会のつながりづくりの仕方	②つながりづくりの課題	③望ましいつながりづくり
2グループ	●参加自治会 ・秋津町 2名 ・青葉町 3名 ・萩山町 1名 ・多摩湖町 1名	<ul style="list-style-type: none"> ・防災防犯で協力する ・自治会総会で「防災講座」を開催した ・ゴミの個別回収で会員間のコミュニティーの場がなくなった分、資源回収で協力体制を作る ・健康体操 ・認知症対策（医師の講話） ・自治会組織の中に防災部があり、週末の夜見回りを行っている。夏休み、冬休みには子どもも参加している ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員と班長が毎年代わる ・会員の高齢化により、班長もできない人がいる ・特に活動していない ・役員の高齢化、若い方の無関心により後継者作りに苦労している 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動で、照れずに見知らぬ人とあいさつする雰囲気作り（看板・ポスター） ・自治会ではなく地域で夏祭り、新春ふれあい祭り ・ボランティアグループによるバックアップ ・小学校との連携 ・ハロウィンは子どもたちも参加しやすい。親も一緒に参加して顔見知りになっていけるとよい ・クリスマス会+飲み会
		○ほとんどの自治会が防犯・防災が中心に活動している。若い人も防犯・防災には関心がある。	○後継者がなかなか見つからない。次の人に引き継ぐときは、自分で探すしかない。	○市から高齢者を見守ってくださいと言われていたが、個人情報保護法が邪魔して、高齢者の年齢や状況が入ってこない。高齢者が不便を感じても、見守ってあげることができない。
		◎防犯・防災のつながり ◎健康体操	◎後継者 ◎個人的つきあいで探す	◎あいさつ運動 ◎個人情報の壁 ◎若い人が集えるイベント

「・」→グループワーク付箋 「○」→グループ発表 「◎」→講師板書

	グループ構成	①所属自治会のつながりづくりの仕方	②つながりづくりの課題	③望ましいつながりづくり
3グループ	●参加自治会 ・萩山町 5名 ・恩多町 1名	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治会との定期的な集まりが必要では ・行事を数自治会協同で行う ・絆はあまり深くなくてよい。あいさつできれば ・災害時に差別化できないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会館がない ・空き家を集会の場所として使わせてもらえないか ・役員のなり手がいない ・よその自治会の情報がほしい ・会長、役員の任期が短く引継ぎがうまく伝わらない ・隣に引っ越してきてもあいさつがない若い人が多い ・隣に誰が住んでいるか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンやもちつき等のイベントで若い人を登用し、実行委員で対応する ・若い女性を副役員にするとよい ・活性化のキーワード「子ども、若い人、女性」 ・一人では何もできない、二人以上必要 ・会員が持っている能力を聞き出す努力をしたい ・萩山エリアの自治会と一緒に話し合う場が必要
		○自治会員を増やすのに苦労している。建売りの入居者に勧誘すると、「メリットは何ですか」と必ず聞かれる。うちの自治会で何かあったときは、犠牲者は絶やさないという活動をしていると説明している。	○役員のなり手がいない。班長くらいならいいよと言われる。 自治会館がない。活動拠点が必要である。	○若手・子どもが参加できるようなイベントをして自治会を活性化させる。ハロウィン、もちつき等。父親に写真係などの役割を与えて活動に巻き込んでいく。 自治会同士で話し合いをし、一つの自治会では解決できないことも知恵を出し合う。
		◎メリットを宣伝している（誰も犠牲にしない）	◎自治会館（場所） ◎役員のなり手	◎若い人中心の事業（ハロウィンなど） ◎自治会連携

「・」→グループワーク付箋 「○」→グループ発表 「◎」→講師板書

	グループ構成	①所属自治会のつながりづくりの仕方	②つながりづくりの課題	③望ましいつながりづくり
4グループ	<p>●参加自治会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士見町 5名 ・野口町 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の中で負担を分担しあう ・自治会の役割は班の中で顔見知りになること ・イベントごとに実行グループを作り、そのイベントだけを分担する ・役員、班長は班ごとに決め、高齢の方は班でとばすこともできる ・共通のテーマ「防災、防犯」に取り組む ・役員になるのが面倒 ・役員の半分で交代 ・役員にありがとう 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員のなり手がいない ・役員になるときのルール（年齢など） ・まつりを楽しくしたい ・イベントはおいしいもので人集め 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会どうしのつながりがほしい ・回覧で近所の確認 ・あいさつ運動。子どもたちと話せて嬉しい
		<p>○つながりづくりの議論には至らず、その前の話題で終始議論された役員が面倒。輪番制で役員が回ってくるが、何もせずに終わる。役員が回ってきたから自治会を辞める人が増えた。役員に「ありがとう」と言える地域作りが必要。自治会の中で役員を盛り上げていくことが大切。役員が負担にならないようなゆるやかなルール作りを。イベントをやる意義・目的をしっかりとる。</p>	<p>◎役員の「役」とは？ →面倒臭い、負担が多い 「お見知り」「<u>ありがとう</u>」共通認識</p>	<p>◎イベントの楽しさ（おいしいもの） ◎役員ルール（年齢など）</p>

「●」→グループワーク付箋 「○」→グループ発表 「◎」→講師板書

	グループ構成	①所属自治会のつながりづくりの仕方	②つながりづくりの課題	③望ましいつながりづくり
5グループ	●参加自治会 ・恩多町 5名	<ul style="list-style-type: none"> ・総会で行事を決める ・イベント企画・実行（11月） ・環境デー（6月） ・バスツアー（子ども多数参加） ・夏休みに子ども中心の花火大会を開く ・ごみ処理場見学 ・集団資源ごみ回収による収入 ・相互に協力できるもの（行事）を作る ・若い人が参加したくなる行事を企画（ハロウィン等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員不足 ・役員以外の住民が入りづらい ・高齢者の方への対応 ・積極的参加者が少ない ・参加者が固定化している ・高齢化 ・若い人がいない ・顔が見える関係の構築 ・やる気人間の発掘 ・役員会に丸投げだと活動しない自治会になる ・活動してもいいと思っている住民の発掘 ・商店街中心でそれ以外の住民は不活発 ・役員会がひとりぼっち、隠れた支援者はいる！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい自治会 ・あいさつ+立ち話の習慣づくり ・つかず離れず ・困ったときに頼れる関係 ・少数の人に負担をかけすぎず小さい役割に。楽しくやる ・自治会で「お手伝い」の仕組みづくり ・参加できない人のフォローができる ・小学校とのつながり ・多世代交流 ・組織の若返り
			<p>○役員会がひとりぼっちになってはいけない、隠れた支援者は必ずいる。支援者探しが必要。 PTAの集まりの際に自治会を周知する機会を作ることで、若い方の参加が増えるのでは。通学途中で旗を振ってくださる見守り活動で、子どもたちにもつながりの意味が分かる。</p>	<p>○あいさつや立ち話が重要。多世代の交流やお手伝いができる仲につながる。</p>
			<p>◎役員会が孤立→隠れた支援者はいる！（新しい人探し）</p>	<p>◎PTA 役員の観点から自治会の知名度が不足 ◎地域の他団体とつなぐ ◎「立ち話」「あいさつ」「お手伝い」</p>